

ネギネクロバナキノコバエ 防除マニュアル (令和5年9月版)



農業技術研究センター
大里農林振興センター

もくじ

はじめに	1
ネギネクロバネキノコバエとは	2
ネギネの生態	3
ネギの防除体系	6
ネギネの防除薬剤	7
ニンジンの防除体系	8
農薬以外の防除対策	9

はじめに

ネギネクロバネキノコバエ（以下ネギネ）は、2014年に県北部のネギ、ニンジンで初めて被害が確認された国内初発生の害虫です。また、隣の群馬県でも2016年にネギで、2018年にはニラでネギネの被害が確認されています。

県内のネギネ発生地域は年々少しずつ拡大していますが、2023年9月現在では県北部のみに留まっています。

発生当初は防除対策がなく、深刻な被害もみられましたが、生態の解明や農薬登録が進んだ現在では、本マニュアルに記載した防除体系を実施することで、ネギネの被害を防ぐことが出来ています。

ネギネの発生が確認されている地域でネギ、ニンジン等を栽培する場合には、本マニュアルに基づいてしっかりと防除を行いましょう。



ネギネ被害により坪枯れ状となったネギほ場
(2016年8月)

ネギネクロバネキノコバエとは



成虫 左：メス 右：オス
(体長2～3mm程度)



蛹



幼虫 (最大6mm程度)



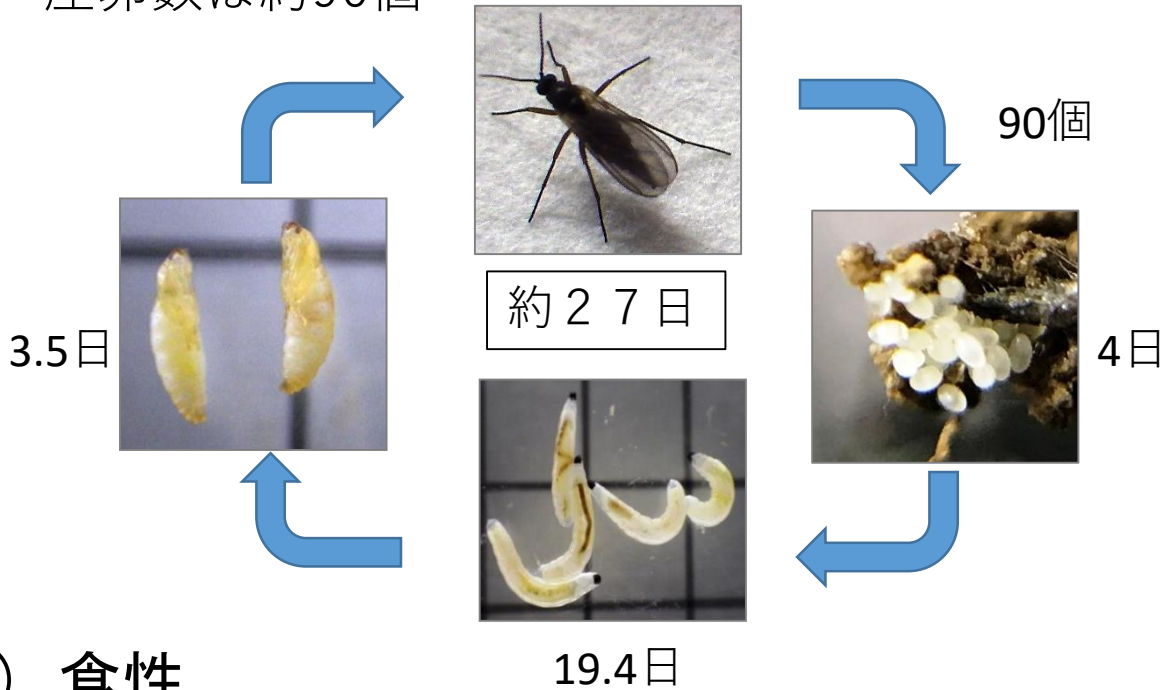
卵

- クロバネキノコバエ科の一種
- 同種の農業害虫として、チバクロバネキノコバエ、ジャガイモクロバネキノコバエがいる。
- 上記2種が有機物を好むのに対し、ネギネは新鮮な植物を積極的に食害する。
- 中国などにも生息し、ニラなどで大きな被害を出している。

ネギネの生態

(1) 発育

- 発育期間（卵～成虫、25°C）は約27日
- 発育に必要な温度は約8°C以上
- 成虫寿命は雌：4.3日、雄：5.7日
- 産卵数は約90個



(2) 食性

- ネギ・ニンジン以外にもダイコン、ニラ、一部の雑草などを食害する。
- 室内環境では、様々な野菜や植物を食べ生育できる。
- 有機物である米ぬかでも生育できる。
- 環境次第でこれまで確認されていない作物にも被害がでる可能性がある。

(3) 行動

成虫

- 飛翔できるが、主に歩行により移動する。
 - ネギほ場では地表面や葉上を歩行する。
- ※ 黒い小さな虫が集団で飛翔していることがありますが、ネギネではありません（タマバエなど）。

ネギネの生態

幼虫

- 植物の地下部に寄生し、地上にはほぼ出ない。
- ネギの茎盤や土中の葉鞘を好んで寄生し、集団でいることが多い。
- 地上部の食害はない。

(4) 被害

ネギ

- 茎盤に小さな空洞をつくる。
- 葉鞘の食害は表面から始まり、次第に深くなる。
- 地上部に症状は出にくいですが、食害が激しくなると、外葉が枯れ、生育が悪くなる。
- チバクロバネキノコバエ、ジャガイモクロバネキノコバエでは寄生幼虫数が多くても、被害はほぼない。

ニンジン

- 食害された場所が黒褐色に変色する。
- 食害の大きさは針でつついた程度から十数cmまで。
- 被害の大きさの割に、幼虫の寄生は少ない。



ネギ茎盤の食害



ネギ葉鞘の食害

ネギネの生態

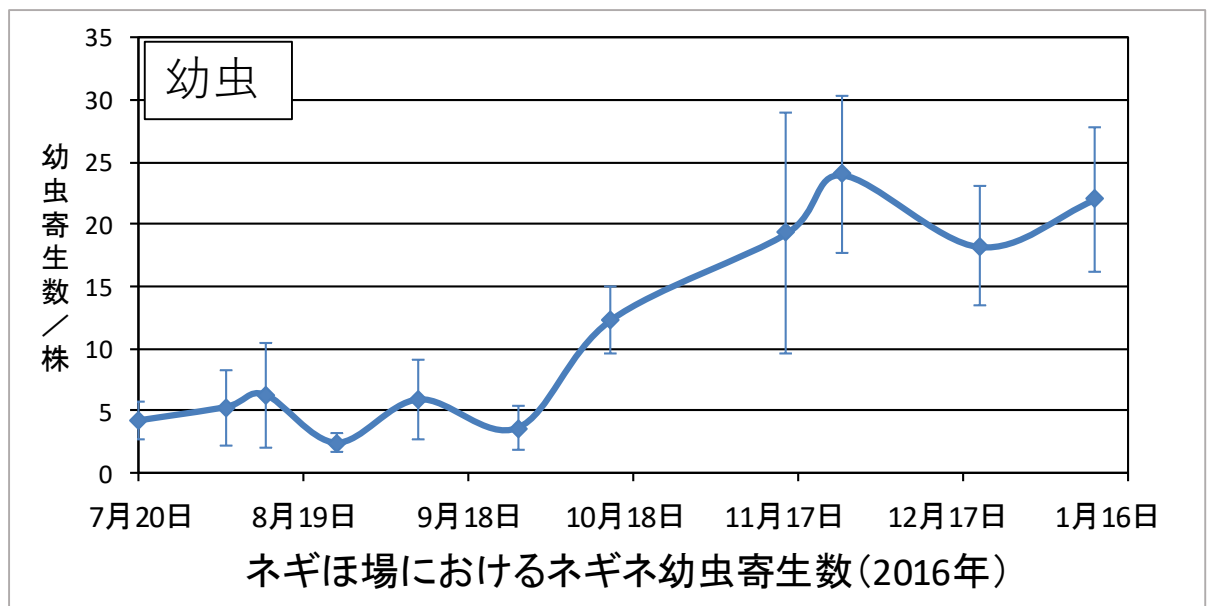
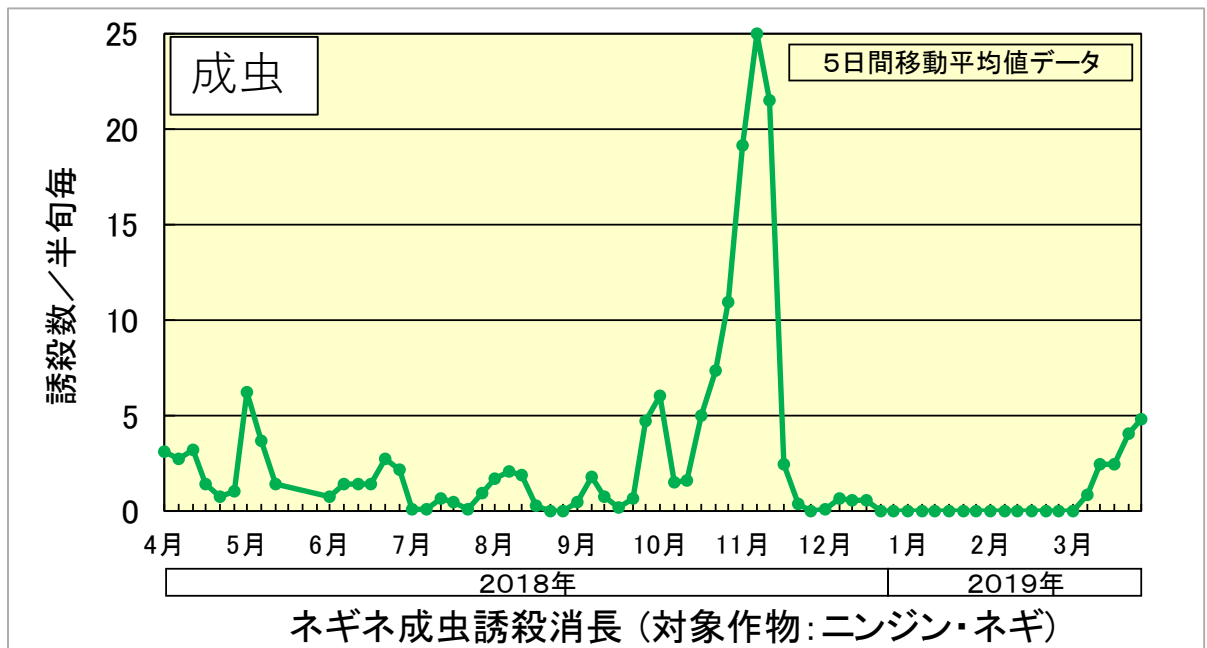
(5) 発生消長

成虫

- 発生時期は3月中旬から12月上旬
- 年間6～7世代発生

幼虫

- 気温の低下する9月以降に増加する。
- 土中の植物に寄生して越冬する。



ネギの防除体系

ネギ被害を防ぐには地域全体で防除に取り組み、生息密度を下げましょう。

ネギでは地中深い茎盤に幼虫がいるため、農薬が比較的届き易い土寄せ前までの防除が重要です。

- ① 定植時に粒剤施用またはセルトレイ灌注を行う。
- ② 土寄せ前・幼虫増加期前に、スタークル／アルバリン顆粒水溶剤の灌注、またはスタークル／アルバリン粒剤を施用する。
- ③ ネギネの世代は1か月程度なので、3週間間隔で薬剤散布を行う。
- ④ 散布の場合は株元によくかかるようにする。

ネギでの薬剤散布例（5月定植）

時期		管理作業等	防除時期
5月		定植時	定植時処理剤(表1)
6月	上	↑	↑
	中		
7月	下	↓	↓
	上		
8月	中	↑	↑
	下		
9月	上	↑	↓
	中		
10月	下	↓	↓
	上		
11月	中	↓	↓
	下		

ネギネの防除薬剤

「ねぎ」の「クロバネキノコバエ類」について登録のある農薬
(2023年9月1日現在)

表1: 定植時処理剤

IRACNo.	商品名	使用方法	使用時期
3A	フォース粒剤	作条土壌混和	定植時
4A	ベストガード粒剤	植溝処理土壌混和	定植時
4A	アドマイヤーフロアブル	灌注*	定植前日～定植時
28 4A	キックオフ顆粒水和剤	灌注*	定植前日～定植時

*:セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊あたり0.5L

表2: 灌注剤・粒剤

IRACNo.	商品名	使用方法	使用時期
15	デミリン水和剤	株元灌注	収穫21日前まで
3A	フォース粒剤	株元散布	収穫30日前まで
4A	スタークル/アルバリン 顆粒水溶剤	株元灌注	生育期 (但し、収穫14日前まで)
4A	スタークル/アルバリン 粒剤	株元散布	生育期 (但し、収穫3日前まで)

表3: 散布剤

IRACNo.	商品名	使用方法	使用時期
4A	ベストガード水溶剤	散布	収穫前日まで
15	カスケード乳剤	散布	収穫14日前まで
1A	ランネート45DF	散布	収穫7日前まで
21A	ハチハチ乳剤	散布	収穫7日前まで
14	パダンSG水溶剤	散布	収穫前日まで
30	グレーシア乳剤	散布	収穫7日前まで
28	ヨーバルフロアブル	散布	収穫3日前まで

ニンジンの防除体系

ニンジンではトンネルが除去される時期とネギネ成虫の発生開始時期が重なっているため、この時期の防除が重要です。

- ① は種時にフォース粒剤またはランダイヤ粒剤を施用する。
- ② 最も効果の高いスタークル／アルバリン顆粒水溶剤を、トンネル除去直後に灌注する。
- ③ ネギネの一代は1か月程度なので、3週間間隔で薬剤散布を行う。
- ④ 散布の場合は株元によくかかるようにする。

ニンジンでの薬剤散布例

時期	管理作業	使用薬剤	 <p>ネギネ幼虫に食害されたニンジン</p>
12月	播種時	フォース粒剤 または ランダイヤ粒剤	
1月			
2月			
3月			
4月	トンネル除去直後	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤・灌注	
5月		カスケード乳剤 ランネート45DF	

「にんじん」の「クロバネキノコバエ類」について登録のある農薬（2023年9月1日現在）

IRAC No.	商品名	使用方法	使用時期
3A	フォース粒剤	全面土壌混和	は種前
1B 1A	ランダイヤ粒剤	全面処理土壌混和	は種前
4A	スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	株元灌注	生育期 (但し、収穫21日前まで)
15	カスケード乳剤	散布	収穫3日前まで
1A	ランネート45DF	散布	収穫前日まで

農薬以外の防除対策

(1) 残渣対策

収穫後の残渣にはネギネ幼虫が付着している可能性があります。

- 出荷調整残渣をほ場に集積し、土壤消毒剤キルパーを使って死滅させる。
- または、石灰窒素とともに土壌と混ぜ、早期に腐熟させる。
- ほ場に残ったネギ・ニンジンもネギネの発生源となるので、石灰窒素を施用し耕耘する。
- 石灰窒素の施用量はいずれも60kg/10aとする。

(2) 排水対策

ネギネ幼虫は多湿を好むので、水が滞留しないよう明渠の設置や排水路の確保を行う。

(3) 周辺作物・雑草の管理

ネギ・ニンジン以外の作物や雑草（特にキク科）にも寄生するので、周辺作物の防除や除草を行う。

ネギネクロバネキノコバエ 防除マニュアル

本マニュアルは、平成29～31年度レギュラトリーサイエンス研究委託事業「クロバネキノコバエ科の一種の総合的防除体系の確立と実証」により作成された「ネギネクロバネキノコバエ (*Bradysia odoriphaga*) の防除のための手引き-2019年改訂版-」から抜粋したものを中心に編集しました。本マニュアルの無断での複製・転載は禁じます。

発 行

埼玉県農業技術研究センター
病害虫研究担当

〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広784

TEL: 048-536-0311 (代表)

発行日: 2023年9月14日



コバトン